

タイトル	気持ちはいろいろ（発展編）		
ワークの目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の気持ちを理解し、人によって異なる感情が存在することを知る。 		
背景	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の感情が他の人とは違うことがあるということを認知するのは多様性を認め合う上で必要不可欠な能力です。 ● 本ワークでは、あるスライドに対する感情を自分の視点、他者の視点から考えることで、上記を体感してもらいます。 		
対象学年	小学校中学年・高学年	所要時間	20～30分
準備	（今回は「ふたりのももたろう」を使用する例）絵本、場面集、ワークシート		
実施内容	支援の観点・留意点		
① 導入			
<u>気持ちには理由があること、その理由を知ることで自分や他人をより深く知ることができることを伝える</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 「自分はなんでこんな気持ちになるんだろう、と考えたことはある？」 ● 「例えば、うれしいってときは、頑張って何か目標を達成できたことがあるかもしれないし、悲しいってときは何か失敗したかもしれないよね」 ● 「こんなふうに何か気持ちを感じることは理由があるし、その理由は人に寄って違うと思うんだよね。」 ● 「だから今日は自分の気持ちとその理由を考えつつ、ほかの人はどういう気持ちになるか知ってみよう！」 			
② ワーク			
<u>絵本のあるシーンに着目し、感情の背後にある理由や価値観を考えてもらう</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 「おにのこのももたろう」の物語まで読み聞かせ <ul style="list-style-type: none"> – 大きくなったももたろうが自分の頭にツノがなく、悲しくなるシーン ● 参加者に問いかけ <ul style="list-style-type: none"> – 「ここでは、ももたろうはどんな気持ちだと思いますか？」 ● 「悲しそう、怖がってそう」などの答えが返ってくる ● 次に何でその気持ちになったのかを聞いていく <ul style="list-style-type: none"> – 「なんでそういう気持ちと思ったのか先生に教えて！」 		留意点 <ul style="list-style-type: none"> ● 気持ちの理由を答える際に「～大切・大事だから」で終わる価値観やニーズを表す答えを導くことを意識してください。 ● 気持ちの理由を答えるのに苦労していたら、以下のように問いかけてあげましょう 	

	<ul style="list-style-type: none"> - 「何が大切だから悲しくなったのかな？」 - 「何が怖くて、涙が出たのかな？」等
③ ワーク 2	
<u>場面集を見て、その場面で自分がどんな気持ちになるか考えてもらう</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 趣旨の説明を行う <ul style="list-style-type: none"> - 「それでは次にこれから見せる場面で自分だったらどう感じるかワークシート（図1）に書いてみよう！」 ● ワークシートを配り、3シーンほどをみせ、それぞれ記載してもらう ● 発表 	<u>留意点</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 気持ちに良し悪しはないこと、人間は自然と色々な気持ちを感じるものだということ、感情を表現するのは恥ずかしくないことをはっきり伝えましょう ● 気持ちを発表する際には一人一人の感じ方を認め、肯定することが大切です。発表ごとに全員で拍手をする、「そうなんだー」「そういうこともあるよね」と気持ちを受け止める表現を活用しましょう
④ 振り返り	
<u>自分と他人では気持ちが異なることがあり、自分の感情にも理由があることを問いかけて感じてもらう</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 「自分の気持ちについて気づいたことはあるかな？」 ● 「他の人の気持ちや感じ方の違いについて気づいたことはある？」 ● 「なんで、自分と他の人の気持ちが違うようになるのかな？自分と違った感じ方をした理由を考えると自分や友達のことをもっとわかるようになるんじゃないかな？これからも考えてみようね！」 	

ワークシート (図1)

<p>いま、どんな気持ちだろう？</p>	<p>なんでかな？</p>
----------------------	---------------

提供・作成：#たしかに、内山唯日